



福島原子力事故関連情報アーカイブ

FNA

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	原発事故後の山形大学構内の大気浮遊塵に含まれるセシウム濃度の時間推移について 2
Alternative_Title	Profiles of radioactive Cs concentrations of the atmospheric suspended dust at Yamagata University after the Fukushima Daiichi (F-1) nuclear power plant accident 2
Author(s)	清水 啓文(山形大学), 岩田 尚能(山形大学), 乾 恵美子(山形大学), 櫻井 敬久(山形大学), 門叶 冬樹(山形大学) Shimizu, Hirofumi(Yamagata Univ.); Iwata, Naoyoshi(Yamagata Univ.); Inui, Emiko(Yamagata Univ.); Sakurai, Hirohisa(Yamagata Univ.); Tokanai, Fuyuki(Yamagata Univ.)
Citation	第 54 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.5 54th Annual Meeting on Radioisotope and Radiation Researches
Subject	セッション：東電福島第一原発事故関連_環境(2)
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/141702
Right	© 2017 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 54 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。



1a- I -05

原発事故後の山形大学構内の大気浮遊塵に含まれるセシウム濃度の時間推移について II Profiles of radioactive Cs concentrations of the atmospheric suspended dust at Yamagata University after the F-1 nuclear power plant accident II

○清水啓文*1、岩田尚能*2、乾恵美子*3、櫻井敬久*2、門叶冬樹*2

山形大学大学院理工学研究科*1

山形大学理学部*2

山形大学理学部放射性同位元素実験室*3

(SHIMIZU, Hirofumi; IWATA Naoyoshi; INUI Emiko; SAKURAI, Hirohisa; TOKANAI, Fuyuki)

1. はじめに

2011年3月11日に起きた東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故は、山形県の放射線環境にも大きな影響を及ぼした。山形大学（山形市）では事故以前からハイボリュームエアースンプラーを設置しており、放射線環境のモニタリングを継続して行っている。本講演では、原発事故後4年間の山形市における地表付近の大気中放射性セシウム濃度の地表高度に対する時間推移について発表する。

2. 観測

ハイボリュームエアースンプラーは、山形大学理学部5階屋上（地上約15m）と山形大学理学部放射性同位元素実験室の全天候型放射線モニター室（地上約1m）に設置している。理学部屋上のハイボリュームエアースンプラー（HV-1000F、柴田科学）は1000L/minで1日あたり23時間、全天候型放射線モニター室のハイボリュームエアースンプラー（HV-500R、柴田科学）は500L/minで約1週間の大気吸引を行っており、大気中浮遊塵はガラス繊維ろ紙（GB-100R）にサンプリングしている。放射性核種の測定・分析は、高い遮蔽能力を有する遮蔽装置を持った低バックグラウンド高純度Ge半導体検出器により行っている。

3. 結果および考察

図1は、理学部屋上でサンプリングされた¹³⁷Cs濃度の1週間ごとの平均値を2012年から2014年まで示している。濃度変動のピーク時期は、2013年までと2014年では異なっている。¹³⁷Cs濃度の4年間の季節変動の変化について気象データと比較して考察する。

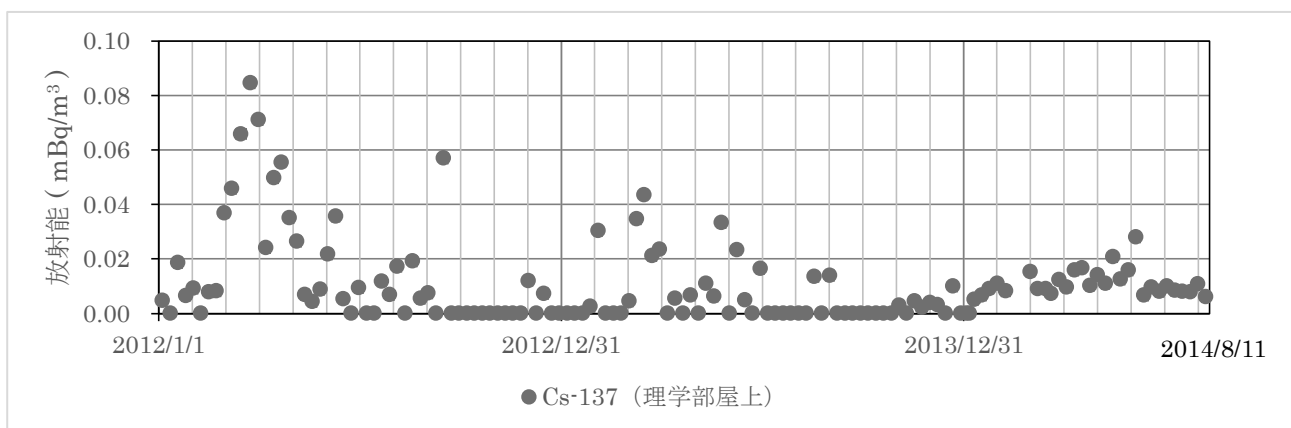


図1：山形大学理学部屋上での1週間ごとの¹³⁷Cs濃度の時間推移

*1 Graduate School of Science, Yamagata University;

*2 Faculty of Science, Yamagata University;

*3 Radioisotope Laboratory, Faculty of Science, Yamagata University